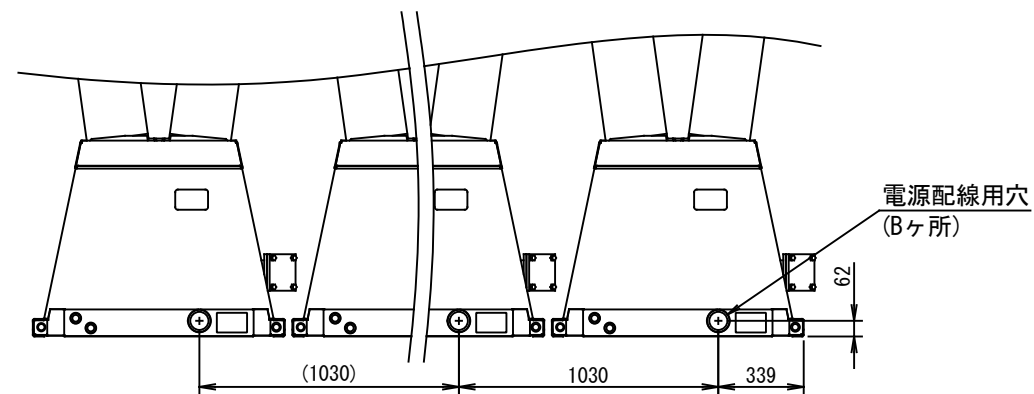
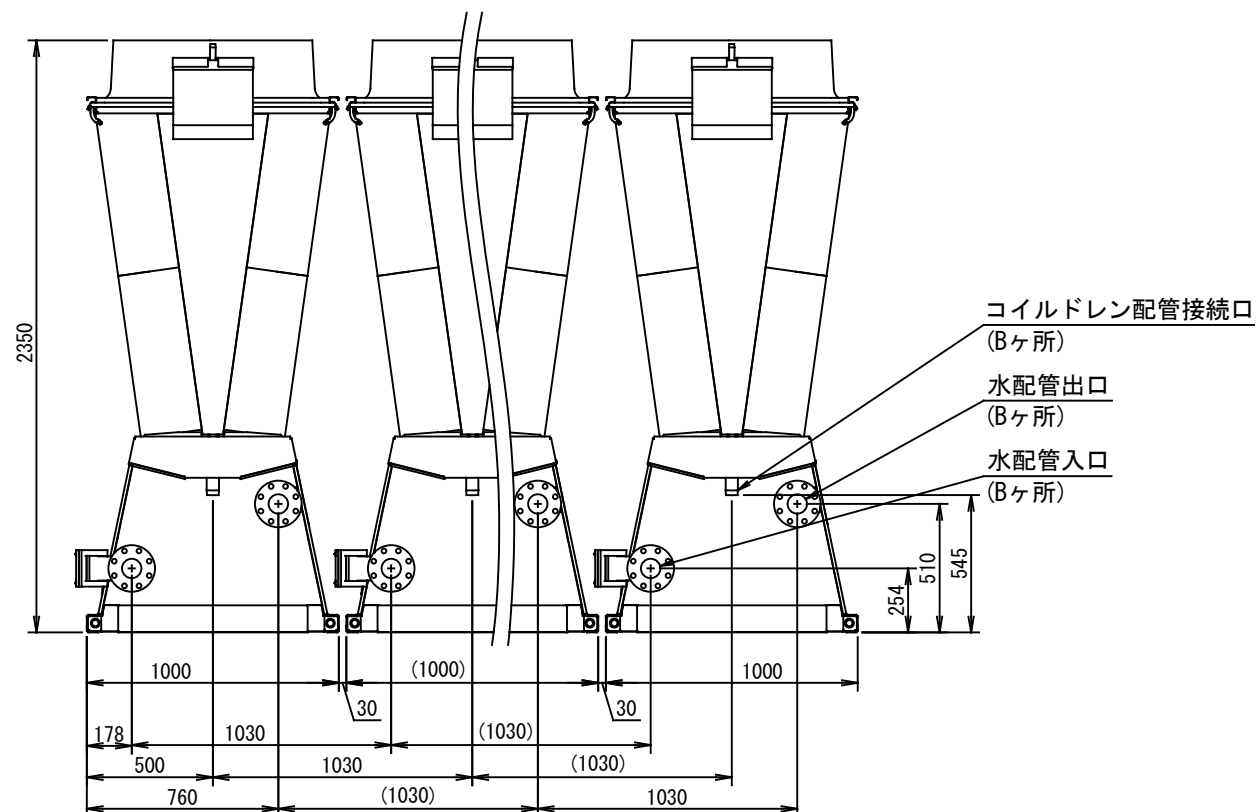


注2. 図中A, B, Cは以下の値になります。

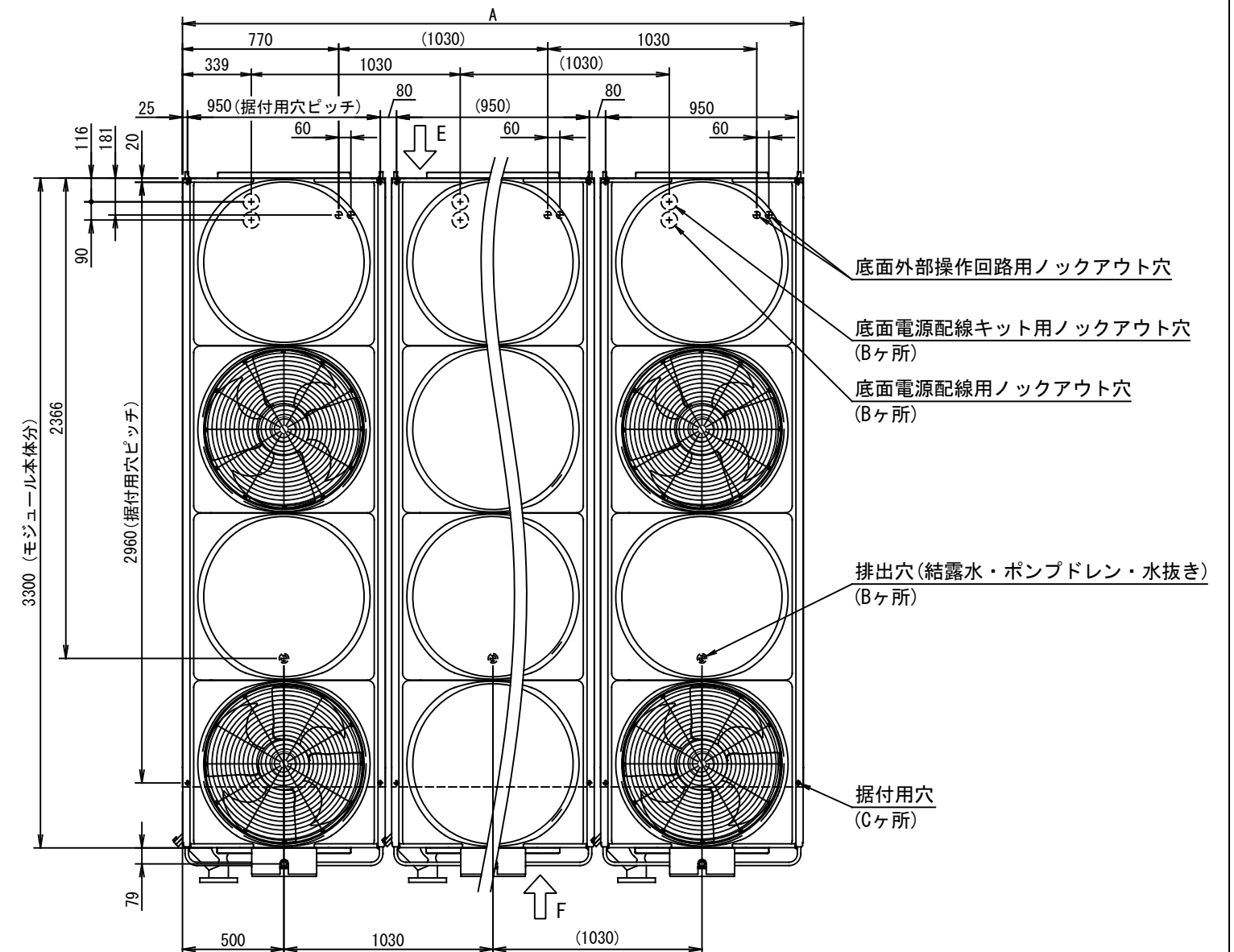
モジュール連結台数	A	B	C
1台	1000	1	4
2台	2030	2	8
3台	3060	3	12
4台	4090	4	16
5台	5120	5	20
6台	6150	6	24
7台	7180	7	28
8台	8210	8	32
9台	9240	9	36
10台	10270	10	40
11台	11300	11	44
12台	12330	12	48
13台	13360	13	52
14台	14390	14	56
15台	15420	15	60
16台	16450	16	64



矢視E



矢視F



平面图

図番	T04D2106-RUAGP561CN		REV. B	図法
品名	空冷式熱源機 外形図		218	三角法
			尺度	単位
			m m	
形名	RUAGP561CN	日本キヤリア株式会社		

注3. 別売部品の電源配線キットを使用する場合、電源配線キット取付時の寸法は、電源配線キット承諾資料を参照ください。

【据付】

- 注4. 熱源機の周囲および集合水配管との間には、図1の据付スペース以上確保してください。
※図1は新鮮外気を吸い込むのに必要なスペースです。製品周囲は高圧ガス保安法などに則り、必要な距離を設けてください。
- 注5. 半地下や屋内への設置は行わないでください。
- 注6. 雨水および機内結露水、ポンプドレン、水抜きの際の排水は、結露水排出穴からユニット下面へ排出されます。
ただし、熱源機周辺が高温・高湿の環境で冷却および加熱運転をすると、外装パネル表面および結露水受けのドレンパンの下にも結露が発生する場合がありますので、基礎面には防水処理を施し、排水された水が基礎面上に溜まらないように、また、周辺に拡がらないようにユニット周辺に排水溝、排水口等を設けてください。
排出穴に、排水受け及び排水溝を施工する場合は、図2, 3の施工例を参照してください。

図1 据付スペース

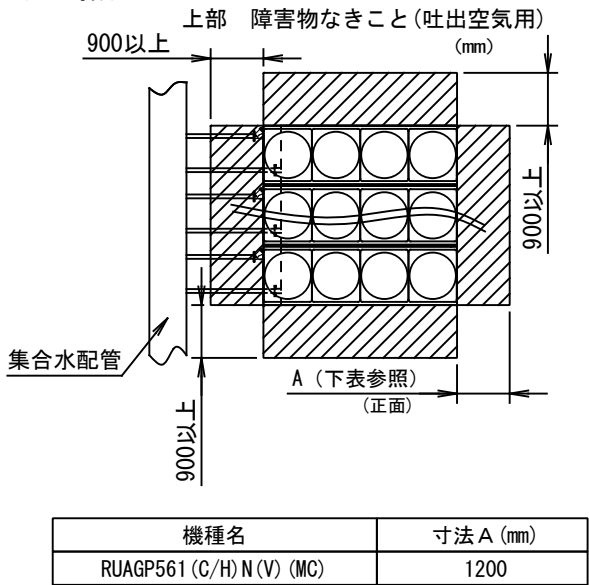


図2 ゲタ基礎の場合の排水受施工例

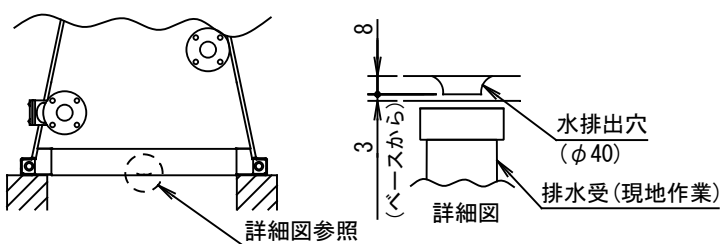
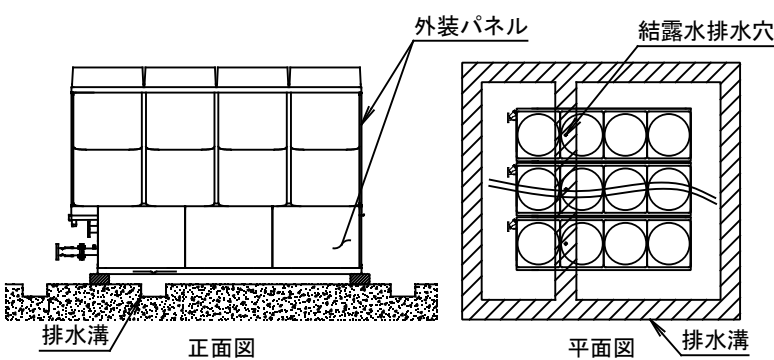


図3 ベタ基礎の場合の排水受施工例



- 注7. 熱源機が冬季季節風に直接さらされる条件下で運転を行なう場合は、空気側コイル面及びコントロールボックス面にウインドバッフル(強風遮へい板)を別途取り付ける必要があります。
- 注8. 冬季積雪がある地域では、防雪フードを別途取り付ける必要があります。
また、熱源機上部に防雪ネットを取り付ける場合は、積雪を防ぐため降雪センサ(現地手配)を取り付け、降雪時のファン強制運転を推奨します。モジュールコントローラに降雪センサの入力結線することでファン強制運転の対応が可能です。
- 注9. 防振架台等を使用した場合にモジュール上部の衝突を防ぐため、連結金具(別売部品)を使用してください。
- 注10. 第一種の冷凍機とブライン系統を共通にする場合には第一種冷凍設備となる場合がありますので、その際には圧力表示機能付きユニットコントローラを各モジュールに取り付ける必要があります。
第一種冷凍設備になるかについては行政へ確認願います。
- 注11. ドレン水が凍る恐れのある場合には、排水管にヒータ等の凍結防止対策を施してください。なお、ヒータ取付時には排水管の材質(耐熱性)に注意してください。
- 注12. 設置工事作業中及び工事後は冷媒ガスが漏れていない事を確認してください。
冷媒が火気に触れると引火する恐れがあります。

【水配管】

- 注13. 水熱交換器および水配管の凍結事故を防ぐ為、電源を落して長期間停止される場合は、必ず水配管を不凍液で満たすか、または、水抜きを行なってください。なお、水抜きポートはモジュール1台あたり合計3箇所あります。水抜きを行う場合は3箇所全てから水抜きを行ってください。
- 注14. 集合水配管は、空気溜り防止及び水抜きを考慮して施工してください。
また、入口側集合配管が地面または、出口配管と干渉しないように基礎の高さを考慮してください。
- 注15. 熱源機がシステムの最も高い位置になる場合には、各モジュールの入口配管に自動エア抜き弁(逆止機能付き)を設けてください。
- 注16. 冷(温)水の入口、出口配管寸法に誤差が生じるため、フレキシブルジョイント等で誤差を吸収してください。

【電気配線】

- 注17. 据付現場にて全モジュール据付後、各モジュール間の操作回路電線の接続が必要です。
- 注18. 製品下部のロックアウト穴を使用して電源配線を行なう場合は、基礎や鉄骨架台と干渉しないようご注意ください。
- 注19. モジュールコントローラはモジュール1台だけに内蔵されています。モジュールを複数台連結設置する際、モジュールコントローラには遠方発停回路等の現場配線が必要になる場合がありますので、現場配線を考慮した位置にモジュールコントローラを内蔵したモジュールを設置してください。

【付属部品】

注20. 付属部品固定個所一覧

部品名	固定場所	
取扱説明書・据付説明書・保証書等	MCが取付けられているモジュールの主電源端子台付近	
タッチアップペイント	MCが取付けられているモジュールの主電源端子台付近	
連結金具	各モジュールの主電源端子台付近	別売部品購入時(連結金具)
外付けサーミスタ	モジュールコントローラ付近	別売部品購入時
モジュール間通信	モジュールコントローラ付近	別売部品購入時

【納入範囲】

注21. 納入範囲一覧

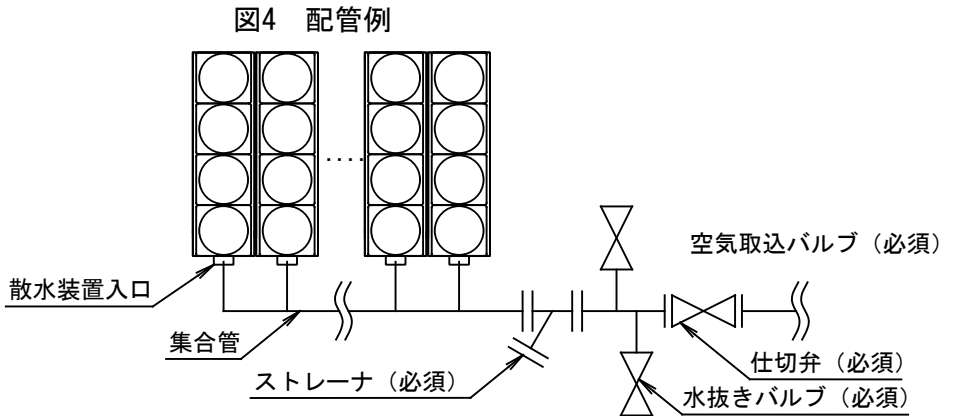
項目		当社内	当社外	備考
本体	熱源機本体	○		
	モジュールコントローラ (MC)	○		必須別売品となります。
	冷媒・冷凍機油	○		出荷時に封入済みです。
	水配管ポンプ	○		出荷時に本体組込済みです。水配管系統側には別途ポンプが必要な場合があります。
	ストレーナ、チェックバルブ	○		出荷時に本体組込済みです。現地での試運転後の清掃及び保温作業が必要です(当社外)。
搬入据付(*1)	工場から現場館側まで	○		車上渡しとなります。
	搬入作業(車上から基礎上まで)		○	
	据付け固定作業		○	アンカーボルト、座金、ナットは現地手配品となります。
	電気工事(*1)		○	
その他	各モジュールへの電源供給		○	各モジュール個別に電源を供給します。
	各モジュールへの接地工事		○	各モジュール個別に接地工事をします。
	各モジュール間制御配線結合作業		○	
	基礎工事		○	
	水配管、排水管		○	モジュール本体に組込まれているストレーナの保温作業も必要です。
	現地組立用電気、水		○	
その他	現地試運転用電気、水		○	
	出荷梱包材 残材処理		○	

(*1)：電源配線キットを使用する場合には搬入据付、電気工事の納入範囲に変更がありますのでご注意ください。
(詳しくは電源配線キット承諾資料を参照ください。)

図番	T04D2106-RUAGP561CN	REV. B	図法
		218	三角法
品名	空冷式熱源機 外形図	尺度	単位
			m m
形名	RUAGP561CN	日本キャリア株式会社	

【散水装置】

- 注22. 給水の水質基準項目および基準値については、日本冷凍空調工業会“冷凍空調機器用水質ガイドライン(JRA-GL-02-1994)”の冷却水系 一過水の項目を満足してください。
- 注23. スプレーノズルが異物で詰まることを防止するために、集合管に50メッシュのストレーナを取付けてください。(図4)
また、空気熱交換器表面に均一に散水されない場合は、スプレーノズルに異物が詰まっている可能性があります。
その場合は、スプレーノズルの洗浄を行なうか、スプレーノズルを交換してください。
- 注24. 給水の水質により、空気熱交換器表面にスケール等が付着する場合があります。空気熱交換器表面にスケール付着が認められた場合は、ブラシや低水圧の水により空気熱交換器表面の汚れを落としてください。
必要に応じ、散水装置入口に軟水器を取付けるなどの対策を行なってください(現地手配)。
- 注25. 各モジュールの散水装置入口には流量調整用手动バルブが取付けられています。給水圧が仕様表の設定圧力になるように流量調整すると共に、各モジュールへの散水量がほぼ均一になるように流量調整を行なってください。
十分な給水圧が得られない場合は、加圧ポンプを取付けてください(現地手配)。
- 注26. 給水圧が高すぎる場合は、減圧弁(現地手配)および安全逃がし弁(現地手配)を設け、給水圧力を調整してください。
- 注27. 水撃(ウォーターハンマ)の発生により振動や水漏れが発生する場合は、水撃防止器(現地手配)を散水装置のできるだけ近いところに取付けてください。
- 注28. 冬期には散水装置内部の水が凍結し、破損する恐れがありますので、外気温度が5℃以下になる場合は取扱説明書の要領に従い、各モジュール内の散水装置の水抜きを行ない、また各モジュールまでの給水管につきましても、集合管に設けた水抜きバルブから水抜きを行なってください。
- 注29. 散水装置の水は細かい霧状のため通常運転時でも製品周囲に飛散する場合があります。また、熱源機が風に直接さらされる条件下で冷却運転を行う場合は、散水した水が空気熱交換器表面に十分に当たらずに周囲に飛散し運転効率が低下する可能性があります。その場合、空気熱交換器にウインドバッフル(強風遮蔽版)を別途取り付けるか、熱源機の風上側に防風壁を設けるなどの対策を行ってください。
- 注30. 散水装置の給水管を上水道に直接接続することはできません。



図番	T04D2106-RUAGP561CN	REV. B	図法
		218	三角法
品名	空冷式熱源機 外形図	尺度	単位
		<div></div>	m m
形名	RUAGP561CN	日本キャリア株式会社	